

# 奈良県立美術館

プレスリリース／2022年10月20日

## 企画展 絵画のたのしみ 奈良県立美術館所蔵名品展《冬》

2022年11月26日(土)―12月25日(日) 主催・会場：奈良県立美術館

前衛絵画を愛したコレクターのまなざしを通して感じる、絵画のたのしみ。



図版1：白髪一雄「作品」1961年、当館蔵（大橋コレクション）

### 展覧会の趣旨

奈良県立美術館はこれまで吉川コレクション・由良コレクションといった特色ある個人コレクションを多数ご寄贈いただいてきました。今回は、1950～70年代の前衛絵画を収集した大橋コレクションを中心に展覧いたします。

《好きなもの》を集めてコレクションする対象は美術に限らずいろいろありますが、見る人によっては「これはちょっとわからない」という抽象絵画・前衛美術を好んで集めるコレクターもいます。関西の実業家で化学者であった大橋嘉一（1896-1978）はまさにそんな一人です。本展では、一人のコレクターによる《絵画を見るたのしみ》と《絵画を集めるたのしみ》を感じていただきながら、第二次世界大戦を経て大きく変容していく1950～60年代美術の一端に触れていただくものです。

大橋氏は創業者・経営者（大橋化学工業株式会社）として活躍するかたわら、1950年代後半から1970年代初めにかけて日本の現代美術を積極的に収集しました。一方、1953年に東京藝術大学へ寄附をして「大橋賞」を設置し、画家を目指す学生の支援も行うなど、コレクターとしてもパトロンとしても日本の美術を支えました。日本を代表する美術批評家の一人、針生一郎も著書の中で「見識と信念をもったコレクター」として大橋嘉一を紹介しています。約2,000点のコレクションは、遺族のご好意により奈良県立美術館、大阪の国立国際美術館、そして氏の母校である京都工芸繊維大学に分割して寄贈され、当館では500点余りを収蔵しています。

出品内容	当館所蔵 絵画 104 点（うち大橋コレクション 97 点） * 出品内容は変更になる場合があります
展示構成	<p>【第 1 展示室】画家とコレクター：白髪一雄と大橋嘉一 白髪一雄（1924～2008）は大阪を拠点にした前衛集団「具体美術協会」の主力メンバーとして国際的に高く評価されています。当館の大橋コレクション 500 余点のうち、白髪一雄は小品を中心に 120 点にもものぼります。その中から 30 点を紹介するとともに、アーティストとそれを支えたコレクターの関係にも光を当てます。</p> <p>【第 2 展示室】1950～60 年代：様々な前衛 第二次世界大戦後、国内外を問わず美術の表現は大きく変わりました。ここでは 1950～60 年代の様々な前衛的絵画の一端を、大橋コレクションの作品でご覧いただきます。関西ゆかりの須田剋太（1906～90）・津高和一（1911～95）をはじめとする国内作家を中心に、一部にロベルト・クリッパ（1921～72）など欧米作家の作品も加えて展示いたします。</p> <p>【第 3 展示室】彫刻家が「描く」 彫刻家は彫刻作品の構想をまとめる過程でドローイング（素描）を描きます。それらを彫刻と切り離して純粋に絵画的表現として鑑賞してみると、また違った面白さが見られます。大橋コレクションから豊福知徳（1925～2019）、それ以外の当館所蔵品から奈良ゆかりの柳原義達（1910～2004）を展示。</p> <p>【第 4 展示室】男もすなる前衛絵画といふものを… 21 世紀の現在と違い、美術の世界は近代以降も長く男性優位でした。そんな中でも、戦後少しずつ女性作家も台頭してきます。女性で最初にヴェネチア・ビエンナーレ日本代表になった江見絹子（1923～2015）など、前衛女性作家の先達ともいえる作家たちを紹介します。大橋コレクション以外から、奈良県在住で「具体美術協会」の主力メンバーだった田中敦子（1932～2005）も展示。</p> <p>【第 5 展示室】「日本画」をさがして 1950～60 年代には既成の日本画壇に飽き足らず、新しい革新的な日本画を目指した作家も多数現れ、大橋嘉一はそのような作品も積極的に収集して支援しました。京都市立芸術大学日本画科の卒業生たちが結成したパンリアル美術協会のメンバーだった野村耕（1927～91）をはじめ、そうした日本画の前衛たちを紹介します。</p>

## ▼展覧会の基本情報と来館案内

主催・会場	奈良県立美術館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6 TEL 0742-23-3968/FAX 0742-22-7032/テレホンサービス 0742-23-1700 公式ホームページ <a href="https://www.pref.nara.jp/11842.htm">https://www.pref.nara.jp/11842.htm</a> ツイッターアカウント @ArtmuseumN
会期 開館時間・休館日	2021 年 11 月 26 日 [土] — 12 月 25 日 [日] 9 時～17 時（入館は閉館の 30 分前まで） 毎週月曜休館
観覧料	一般 400(300)円、大学生・高校生 250(200)円、中学生・小学生 150(100)円 *（ ）内は 20 名以上の団体料金 *次の方は無料で観覧いただけます。 ・65 歳以上の方、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳（アプリを含む）をお持ちの方と介助の方 1 名 ・教職員に引率された奈良県内の小中高校及びこれに準ずる学校の児童・生徒 ・毎週土曜日は県内外問わず、小中高生及びこれに準ずる学校の児童・生徒 ・外国人観光客（長期滞在者・留学生を含む）と付添の観光ボランティアガイドの方

後援（予定）	N H K 奈良放送局、奈良テレビ放送、奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社
交通案内	近鉄・奈良駅 1 番出口から奈良公園に向かって徒歩 5 分 JR・奈良駅 東口バス乗り場から奈良交通バスにて 5 分「県庁前」下車

▼会期中の催し

<p>展覧会関連 当館主催事業</p>	<p>(1) 講演会「白髪一雄と関西の前衛」 講師：平井章一氏（関西大学教授） 日時：12 月 11 日（日）14 時～ 会場：レクチャールーム 定員：先着 50 名（当日 13 時より当館受付にて整理券を配布します）</p> <p>(2) ギャラリートーク 担当：当館学芸員 日時：12 月 3 日（土）、24 日（土）いずれも 14 時～ 会場：展示室</p> <p>* イベントへのご参加には観覧券が必要です。 * 状況により変更する場合があります。最新情報は当館ホームページでご確認ください。 * 新型コロナウイルス感染防止の観点から、ご来館の際は検温・手指消毒などにご協力ください。</p>
<p>連携展示</p>	<p>NPO 法人文化創造アルカによる連携展示 1 階ギャラリー／入場無料 《きたまち 2022～「きたまちといろ」と「インカレ」～》</p>

取材のご依頼  
広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館（展覧会企画担当：副館長／学芸課長 安田篤生）  
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6  
TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032